

AOYAMA NEWS

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

青山学院大学

2020年3月～5月号

<https://www.aoyama.ac.jp/>



特集

大学新執行部からのメッセージ

すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーの育成を目指して

コミュニティ人間科学部 スタート

第96回東京箱根間往復大学駅伝競走

大会新記録で総合優勝!

アディダス ジャパンとのパートナーシップに関する取り組み

インターンシップ参加学生報告

Topics

鎌倉市と包括連携協定を締結 等



No.96

AGU Lecture

理工学部

化学・生命科学科

諏訪牧子研究室

すべての人と社会のために未来を拓く サーバント・リーダーの育成を目指して

2019年12月16日(月)、前副学長で文学部教授の阪本浩氏が第19代青山学院大学学長に就任しました。大学に変革が求められる今、新学長のもと、どのような大学運営を目指すのでしょうか。阪本学長と新たに就任した3名の副学長が、今後の抱負、大学としての取り組みなどについて語りました。



学長からのメッセージ

学長 阪本 浩 任期：2019年12月16日～2023年12月15日

1954年生、青山学院大学文学部史学科卒業、東北大学大学院文学研究科西洋史学専攻博士課程前期二年の課程修了。文学修士(東北大学)。1985年本学文学部に就任。文学部教務主任、青山スタンダード教育機構副機構長、文学部史学科主任、2016年より文学部長・大学院文学研究科長、2017年から副学長、青山スタンダード教育機構機構長をそれぞれ歴任。西洋史研究会、日本西洋古典学会、キリスト教史学会等に所属。



日本が国を挙げて教育改革に取り組んでいる今、大学にも改革が求められています。しかし、時流に乗って改革にばかり気を取られるのではなく、まずは「キリスト教信仰にもとづく教育を目指す」という建学の精神に立ち返りたいと考えています。本学は、明治時代、アメリカのメソジスト監督教会から派遣された3名の宣教師が、日本にリベラルアーツの伝統と教養を伝えるために創設した3つの学校を源流としています。創設時から受け継がれるキリスト教教育の原点を再確認し、教職員・学生と共有しながら、社会に貢献できる「サーバント・リーダー」の育成を目指していきます。

そのために、学部・学科に関係なく履修できる教養教育システム「青山スタンダード」を拡充し、人間形成に欠かせない幅広い教育で学生の成長をサポートします。

一方で、喫緊に取り組むべき課題は3つあります。第1に、入試改革です。日本全体で教育を変えていく機運に共鳴し、思考力・判断力・表現力重視の入学者選抜に転換していきます。受験生が偏差値ではなく、「個性を伸ばせるか」という観点で志望校、志望学部を選べるような仕組みを目指します。第2に、英語教育のさらなる充実です。よりハイレベルな授業を正課科目にしたり、留学生との国際交流と語学力向上を図るチャットルームの強化に注力します。第3に、大きな使命の一つである大学や大学院での研究力を高めて、学外への発信を活発にします。

課題は山積みですが、副学長3名のサポートを受けながら、スクール・モットーの『地の塩、世の光』となる有為な人間を育成していきます。

副学長からのメッセージ



副学長(学務及び学生担当) 稲積 宏誠 任期：2019年12月16日～2021年12月15日

1956年生、早稲田大学大学院理工学研究科機械工学専攻博士後期課程退学。工学博士(早稲田大学)。1993年本学理工学部に就任。情報科学研究センター副所長、理工学部教務主任、2004年より理工学部長・大学院理工学研究科長、2010年より社会情報学部長・大学院社会情報学研究科長、2016年より学生相談センター所長をそれぞれ歴任。電子情報通信学会、人工知能学会、情報処理学会等に所属。

10年後、20年後を見据えながら、社会に求められる人材の育成を心がけたいです。本学には「都会的でおしゃれ」といった世間のブランドイメージがありますが、かえって大学の価値を下げかねないところもあります。地道な研究や学びに目を向け、光を当て、その成果を学外へも発信していく。そのような取り組みで学生や研究者等大学関係者のモチベーションを引き上げ、本来の大学の価値に還元していくことも大切だと思います。

その中で私の役割は、まず研究分野によって全く異なるカルチャーを、お互いに尊重し合える環境にすることです。そのことが教育・研究の活性化につながっていくはずだからです。また、学部・研究科の増設や再編も一段落した現在、それぞれの組織の将来像を中長期的にプランニングすることが大切です。個々の学部・研究科の活性化を促しつつ「本学の全体像」をまとめていくことにも留意していきたいと考えています。



副学長(総務担当) 小西 範幸 任期：2019年12月16日～2021年12月15日

1961年生、南山大学大学院経営学研究科博士課程経営学専攻修了。博士(経営学)(南山大学)。2009年本学大学院会計プロフェッション研究科に就任。大学院会計プロフェッション専攻教務主任、2016年大学院会計プロフェッション研究科長に就任。日本会計研究学会、American Accounting Association、国際会計研究学会等に所属。

アフガニスタンの復興協力に尽くし、銃弾に倒れた医師・中村哲さんの座右の銘は、「一隅を照らす(今いる場所で最善を尽くす)」だったそうです。事件直後に私は副学長就任を打診され、頭の片隅にあったその言葉をもって職を受ける決断をしました。聖書で使われる用語「call, calling(召命)」にも、「神に召されて新しい職に就く」という意味があります。会計を専門とする私が、総務担当として財務を中心とした担当の副学長の職を神から与えられたと考え、使命を全うしていく覚悟です。

具体的には、「次世代につなげる発展」を意味するサステナビリティを意識して、大学と社会との共生を実現していきたいです。研究も教育も、次世代につなげられなければ無意味です。これまでのサステナビリティ会計研究の成果を生かして、財政面を考慮した大学の長期的価値を高めたいと思っています。また、大学院を中心としたリカレント教育の促進が持続可能な社会の一助となると考えています。



副学長(広報及び将来構想担当) 内田 達也 任期：2019年12月16日～2021年12月15日

1963年生、青山学院大学大学院国際政治経済学研究科国際経済学専攻一貫制博士課程修了。博士(国際経済学)(青山学院大学)。1995年本学国際政治経済学部に就任。国際経済学部主任を経て、2016年国際政治経済学部長・大学院国際政治経済学研究科長に就任。日本経済学会、The Regional Science Association International、日本地域学会に所属。

本学の卒業生であり、長年本学で過ごしてきた私は、青山学院創立145年の伝統の中で連綿と受け継がれてきた「本当の青山学院らしさ」を再確認し、それを学生に伝えながら本学を発展させたいです。本当の青山学院らしさとは、洒落でありながらしっかりと人や社会に尽くす姿勢にあるように思います。それはスクール・モットー『地の塩、世の光』そのものようにも思います。広報及び将来構想担当の副学長として、そうした本学の価値を伝え、発展させていかなければなりません。

広報活動を行う際、まず私たち内部の人間が「我々にはこのような独自の価値がある」と本学に誇りを持つことが重要です。また、単に出来事を伝えるのではなく、その出来事を媒介に、学生や保証人の方々、卒業生をはじめ、社会と大学をつないでいくことが大切です。広く信頼関係を築いていくことが、広報の本当の意味であり、そのことを通して本学の価値をさらに高めることが私に課せられた責務だと考えています。

コミュニティ人間科学部 スタート

2019年4月、相模原キャンパスに誕生した「コミュニティ人間科学部」。過疎化や環境問題など、地域に生じているさまざまな課題に対し、専門家としての立場から、また、同時に当事者たる地域住民としての立場から積極的に取り組み、解決できる“実践知”を持った人材を世に送り出すことを主眼として新設されました。

同学部のカリキュラムでは専門的な知識と実体験の両輪が重視されています。中でも特長的な授業が、1グループ8人という少人数制による「地域実習」。教員の指導の下、各地の自治体・施設・企業・NPO等の諸機関の活動に参加し、体験的に学びます。

今回は同学部の伊藤真木子准教授、1期生の中村陽奈子さんと菟川葵さんが、実際の授業内容や学び、また将来について語りました。

5つの履修プログラムと実践知を育むカリキュラム体系



現在までの学びと“コミュニティ”

(以下敬称略)

伊藤 現在は主にどのようなことを学んでいるのでしょうか。

菟川 コミュニティに関する理論や、地域を調査分析する方法などを学んでいます。また人間の形成には、社会・家庭・学校という3方向からの教育が必要であることなどについて学んでいます。

中村 学びを進めるうちに、これまで何気なく身を置いてきた「地域」「環境」にも学術的な区分や定義付けが存在していることを知りました。コミュニティを学ぶことの入り口を垣間見たという段階です。

伊藤 本学部は、人間形成に関わる教育学と地域社会を理解するための社会学を、学問的基盤としています。1年生なので、その基礎をしっかりと固めている段階ですね。

では、そもそもお二人はどういったきっかけで“コミュニティ”に興味を持つようになったのですか？

菟川 私は、子どものときに通っていた英会話学校の先生との出会いを通じて海外に興味を持つようになりました。その影響で高校では国際科に進んだのですが、そこでの学びから、今度は逆に国内の課題やコミュニティの重要さに気付きました。また私には児童養護施設出身の友人がいるので、「地域における子どもの居場所」というテーマが根底にあります。

中村 私は高校生のときに、地元で行われた国際的なイベントに参加したことがきっかけです。海外の方が多く訪れ、それまで自分たちには当たり前だった町の景観や文化財に感動している姿を見て、地域の価値を再発見することになりました。同時に、人が集まるコミュニティの温かさにも魅力を感じ、町外の方に地元の魅力を紹介するツアーを自分でも運営していました。

伊藤 お二人とも共通して、国際的な視点から地域的な課題や価値の発見があったというところは面白いですね。局地的

にコミュニティを見てしまうと、時に視野が狭まってしまう危うさもあるのですが、これからもお二人には人間や文化の多様性を広く捉えていく視点を大事にしてほしいと思います。

学びを通じての変化、これから学んでいきたいこと

伊藤 入学してからの学びを通じて、成長した点や新たな気づきについて教えてください。

菟川 当初、この学部での学びは、地方公務員や地域おこしなど地域に特化した職業の人に役立つものだと考えていました。けれども実際に授業を受けてみて、この学部での学びは、職業や地域を問わず誰にとっても普遍的に必要な内容だと思うようになりました。また国内のコミュニティを客観的に理解するためには、比較対象として海外の事例を学ぶことも重要だというのが新たな発見でした。

中村 高校時代から地域紹介ツアーの企画などコミュニティに関する活動を行っていたのですが、独学で進めていたため客観的な裏付けという点では弱い部分がありました。それが大学で学ぶことにより、体験先行で漠然と積み重ねてきたことの意味を体系的に整理でき、今後はさらに説得力を持って活動できると思いました。

伊藤 本学部の特長の一つに、中村さんのように既に実際に地域での活動に積極的に取り組んできた学生が多いことが挙げられます。体験そのものの価値は言うまでもありませんが、地域社会をつくっていくためには、さまざまな体験や知見を統合し、他者と共有していくための言葉や技法が必要になります。地域での諸活動を支える人の存在や制度的基盤についての理解も大事です。そのために「学ぶ」ということが重要なのです。

また、これまで多くの活動に取り組んできた中村さんのような学生と、これから取り組んでいこうとする菟川さんのよ

うな学生がコミュニケーションを深め、相互に刺激を得ているのも本学部の良いところだと思います。

2年次以降の学びと、将来について

伊藤 コミュニティ人間科学部の1期生としてこれまで学んできましたが、今後学んでいきたいことやご自分の将来についてのイメージを教えてください。

菟川 私は以前から「家族や地域における子どもの居場所づくり」の研究を目指しているのですが、2年次以降は「子ども・若者活動支援」の領域の学びを深めたいと思います。先生方はいつも親身になって相談に乗ってくださいますので、これからますます自分が希望する学びを深めていけるかと思うとワクワクします。この4年間で、自分がどういった形で社会に貢献できるかということを見つけていきたいと思っています。

中村 地域おこしやボランティアの活動を通して、これまで私の周りには温かいコミュニティづくりを実現している“格好良い大人”がたくさんいました。彼らをロールモデルにして、私も「人としていかによく生きるか」をテーマにして学んでいきたいと思っています。また学部の先生方がご自分の専門分野の研究について、本当に楽しそうに話される姿が印象的なので、私もさらに専門性を高めていきたいと思っています。

伊藤 お二人の考え方に共感します。学ぶことを楽しみましょう。そして人や地域への関心を深め、自分はどう関わっていくのかということ、考えていきたいと思っています。

あとがき(伊藤真木子准教授より)

学生の学びへの情熱や気概には目を見張るものがあります。知識や思考に裏打ちされた行動を支援できるよう、授業を進めていきたいです。



コミュニティ人間科学部
コミュニティ人間科学科
伊藤 真木子 准教授
東京大学大学院教育学研究科
生涯教育計画コース(博士課程)
単位取得済退学。社会教育学、
生涯学習論を専門分野とし、現
在は、「地域学習社会論」「コミュ
ニティ活動支援論」などの科目
を担当しています。

コミュニティ人間科学部
コミュニティ人間科学科1年
中村 陽奈子さん
長野県立
長野西高等学校出身
地元の地域イベントに参加
したことから、地域の活性化
に興味を持ち、自らも地域紹
介ツアーを運営。大学では
「人」を主体としたコミュニ
ティづくりを理論的に深め
たいと考え、コミュニティ人
間科学部に入学しました。

コミュニティ人間科学部
コミュニティ人間科学科1年
菟川 葵さん
千葉県立
成田国際高等学校出身
高校で得たグローバルな視
点や諸外国の文化への理解
を通して、国内という身近
な環境にも多くの課題があ
ることを認識。それらの課
題を解決することを目標に、
コミュニティ人間科学部で
学んでいます。

第96回東京箱根間往復大学駅伝競走 大会新記録で総合優勝!



2020年1月2日(木)・3日(金)に開催された第96回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)で、本学は大会新記録で2年ぶり5回目の総合優勝を飾りました。往路は2区の岸本大紀選手が6人抜きでトップに立ち、手堅く2位でつないだ3区を経て、4区で吉田祐也選手が区間新記録で再び首位に。そのまま後続に1分33秒差をつけ、往路新記録でフィニッシュテープを切りました。トップでスタートした復路も1位を譲らず、9区の神林勇太選手が区間賞の走りでのリードを広げて、余裕をもって優勝のゴールテープを切ることができました。今年は2日間とも天候に恵まれ、全10区間中7区間で区間記録が更新されるというハイレベルなレース展開の中、本学も大会新記録を達成。10位以内に与えられるシード権を、11年連続で獲得しています。



総合成績
10時間45分23秒 第1位



往路 大手町～箱根・芦ノ湖 107.5km 5時間21分16秒 第1位

1区	2区	3区	4区	5区
大手町～鶴見 21.3km	鶴見～戸塚 23.1km	戸塚～平塚 21.4km	平塚～小田原 20.9km	小田原～箱根町 20.8km
吉田 圭太 選手 地球社会共生学部 3年 区間7位 1時間1分31秒	岸本 大紀 選手 社会情報学部 1年 区間5位 1時間7分3秒	鈴木 聖人 選手 総合文化政策学部 4年 区間4位 1時間1分32秒	吉田 祐也 選手 教育人間科学部 4年 区間1位 区間新 1時間0分30秒	飯田 貴之 選手 総合文化政策学部 2年 区間2位 1時間10分40秒

復路 箱根・芦ノ湖～大手町 109.6km 5時間24分7秒 第2位

6区	7区	8区	9区	10区
箱根町～小田原 20.8km	小田原～平塚 21.3km	平塚～戸塚 21.4km	戸塚～鶴見 23.1km	鶴見～大手町 23.0km
谷野 航平 選手 法学部 4年 区間3位 58分18秒	中村 友哉 選手 国際政治経済学部 4年 区間4位 1時間3分23秒	岩見 秀哉 選手 教育人間科学部 3年 区間2位 1時間4分25秒	神林 勇太 選手 地球社会共生学部 3年 区間1位 区間賞 1時間8分13秒	湯原 慶吾 選手 文学部 2年 区間5位 1時間9分48秒

2つの大学駅伝でも健闘!

第31回 出雲全日本大学選抜駅伝競走

総合成績 2時間10分51秒 第5位

2019年10月14日(月・祝)、「第31回出雲全日本大学選抜駅伝競走」が開催され、本学は2時間10分51秒の記録で、第5位でゴールしました。昨年の優勝に続き、今回も5回目の優勝を目指し、選手たちは精いっぱい走り抜きました。不順な天候の中、2区の岸本大紀選手が区間賞、そして4区でも、3大学で競り合いながらタスキをつないだ神林勇太選手が区間賞を獲得。選手一丸となって健闘するも、惜しくも第5位という結果に終わり、連覇の難しさを痛感させられました。



秩父宮賜杯 第51回 全日本大学駅伝対校選手権大会

総合成績 5時間14分59秒 第2位

2019年11月3日(日・祝)「秩父宮賜杯 第51回全日本大学駅伝対校選手権大会」が開催され、本学は5時間14分59秒で第2位となり、7年連続で次回大会のシード権を獲得しました。3回目の優勝を目指してスタートした選手たち。接戦の中、トップと18秒差で7位の1区から始まり、前半戦は各區で順位が入れ替わる展開となりました。後半戦では混戦が続くも、ついに7区でトップに立ちましたが、最終8区で惜しくも一歩後退。第2位という結果に終わりました。



特集

アディダス ジャパンとのパートナーシップに関する取り組み インターンシップ参加学生報告

本学はアディダス ジャパン株式会社とスポーツ分野におけるパートナーシップ契約を締結しています。就業体験を通して視野を広げ、習得したものを学生生活やキャリア形成にも生かせることから、2017年度より、アディダス ジャパン株式会社においても、本学と提携したインターンシップがスタートしました。2019年2月から7月にスポーツマーケティングの現場で、実際の業務を通してさまざまな体験をした学生2名のコメントを紹介します。



仕事を任せられるだけでなく挑戦もできた充実の6カ月間でした

小林 祐也さん 経営学部 経営学科3年 東京都・私立青山学院高等部出身



サッカー日本代表戦(宮城県)前のシューズの試し履きサポート

外国人選手との英語でのメールのやり取りや、契約選手へ商品を海外発送するなど、イメージしていたよりも責任の重い仕事をたくさん任せていただきました。また、自分でやりたいと思ったことには、社員の方のご協力でどんどん挑戦できる雰囲気がありました。中でも、神戸でシューズ製作を手伝わせていただいたことが印象に残っています。こうしたさまざまな経験のおかげで、自分なりにもの見方も変化したと思います。一番の大きな変化は、スポーツの現場をビジネスの観点から見られるようになったことです。これは、「サッカー日本代表戦の試合会場でのブース(出店)の戦略的な配置」を教えていただいたことがきっかけです。集客できるチームとできないチームとの違いについて、ビ

ジネスの視点で考えるようになりました。私は体育会のサッカー部に所属しているため、今後もスポーツと共に歩んでいきたいと思っていました。そのため、スポーツを支える世界的な企業で経験を積みたいと考えていた自分にとって、今回の体験は大きな収穫です。インターンシップの活動報告プレゼンテーションでは、コミュニケーション力を評価されたことも自信につながりました。たくさんのことを与えていただいたので、いつか恩返しできるような社会人になりたいです。



アルバルク東京(プロバスケットボールチーム)イベント開催後の記念写真

“姿勢も大切”だと学んだ刺激的なインターンシップでした

牧 利亮さん 地球社会共生学部 地球社会共生学科4年 大分県・私立大分高等学校出身



東京ドームにて契約選手に用具を提供

新しいことに挑戦したいと思っていたときに、インターンシップ募集のポスターを見つけました。就職活動を本格的に始める前に、実際に働く体験がしたかったこともあり、応募しました。担当業務は、契約選手への商品発送やラグビーワールドカップの社内告知といった業務に加え、社外イベントのサポートなどでした。イベントでアディダスのシューズを来場者が試し履きするブースを任せられたときには、試し履きの目標人数の設定や集客のための工夫をし、シューズの魅力を伝える努力もしました。このような実務の経験は刺激的でしたが、他にも驚いたことがあります。それは、アディダスの環境への取り組みです。アディダスは海のプラスチックゴミでアップサイクルしたシューズを生産す

るなど、環境に配慮しています。その意識が社内にも反映されているため、社内のカフェでは紙のストローや木製のスプーンが使われ、自動販売機にはペットボトル商品が一切ありません。仕事だけでなく企業としての姿勢を肌で感じる事ができ、今回のインターンシップは学びの多い、貴重な一生の財産となりました。この経験を将来につなげるためにも、学生のうちに仕事に生かせるスキルを身に付けるなど、自分の可能性を広げたいと思います。



サッカー日本代表戦(横浜市)前のシューズの試し履きサポート

鎌倉市と包括連携協定を締結

2019年11月19日(火)、本学と神奈川県鎌倉市は、相互の発展のため、教育、文化、まちづくりなどの分野における包括連携協定を締結しました。文学、歴史、芸術などの学術交流並びに教育研究活動を通じ、地域社会の教育・文化の振興と発展および人材育成に寄与することを目的として、連携を行ってまいります。

鎌倉市役所で行われた締結式では、松尾崇鎌倉市長と三木義一学長(当時)が協定書に署名し、固く握手を交わしました。

この協定の締結により、鎌倉市制80周年記念事業の一つ、「知

られざる鎌倉」の取り組みとして設立される「鎌倉仙覚文庫」の関連イベントなどに本学の小松靖彦教授も参加し、相互協力のもとで持続的な発展に寄与することを目指して、さまざまな取り組みを行っていく予定です。



包括連携協定を締結した三木学長(当時)(左)と松尾市長(右)

産学連携イベント「Meet up in AGU 2019 @ SAGAMIHARA」を開催



リエゾンセンターの紹介を行う黄教授

2019年度に統合研究機構内に設置された「リエゾンセンター」は、本学の研究に触れてもらうことを目的とした産学交流イベントを、2019年12月11日(水)に実施しました。

イベントでは、理工学部・社会情報学部の研究概要プレゼンテーションや、日頃あまり一般公開を行わない大型電子顕微鏡など、さまざまな研究設備機器を企業の方々に公開しました。今回は新たに学生を対象とした地元相模原市の企業各社との交流企画を実施し、多くの企業の方々にお越しいただきました。参加者からは、大学の研究に触れられる貴重な機会であり、ぜひ今後も開催してほしいとの声が聞かれるなど、本学教員の高い技術力・高度設備機器をご認識いただき、大学の技術シーズと企業ニーズの良き出会いの場となりました。

(Meet up in AGU 2019 @ SAGAMIHARA プログラム)

オープニングセッション	1) 開会挨拶： 統合研究機構 リエゾンセンター長(当時) 橋本修 教授 2) リエゾンセンターのご紹介： 統合研究機構 リエゾンセンター 副センター長 黄晋二 教授 3) 研究紹介 1： 「知技能ロボットを社会実装する実践的な研究のご紹介」 理工学部機械創造工学科 田崎良佑 准教授 4) 研究紹介 2： 「高効率なワイヤレス給電システムの実現に向けて」 理工学部電気電子工学科 松本洋和 准教授
分科会	生産・工程管理 コース(理工学部/研究概要プレゼン) 画像処理 コース(理工学部/研究概要プレゼン) AI・情報処理 コース(社会情報学部/研究概要プレゼン) 理工学部附属機器分析センター見学コース(見学会)
地元企業との交流ブース	
技術交流会	

「MMR^{*}セミナーシリーズ@青学 第2回 保健医療研究者のための混合研究法セミナー」を開催

※Mixed Methods Research



講師、ワークショップアシスタント、通訳、主催者集合写真

青山学院大学総合研究所研究ユニット「複雑化する社会問題の解決にむけた『混合研究法』の教育・研究拠点の構築」の主催で、講演会およびワークショップ

を開催しました。2019年5月の外国語教育研究者のためのセミナーに続き、今回は保健医療研究者のためのセミナーを開催しました。1日目には混合研究法の世界的権威である John W. Creswell 博士(ミシガン大学・本学総合研究所MMRプロジェクト客員研究員)が「厳密な研究を支える混合研究法の発展」と題したご講演を、

Theresa S. Betancourt 博士(ボストンカレッジ社会福祉学部)が「子どもと家族機能およびメンタルヘルスに対する心的外傷の影響に関する理解と介入のデザイン：地域に根ざした参加型リサーチ(CBPR)におけるMMRの使用」というテーマでお話をされました。2日目は、3時間のワークショップが行われました。

看護研究者、医師、作業療法士といった保健医療に携わる多くの方々にご参加いただきました。また、Betancourt 博士が世界各地の児童兵や難民のご研究をされておられることから、そのようなテーマにご関心をお持ちの方々にもご参加いただきました。

2019年11月9日(土)・10日(日) 青山キャンパス17号館 17512 教室、14号館 第18・19会議室にて
(国際政治経済学部教授・ユニットリーダー 抱井 尚子 記)

2019年度 卒業・修了、進級および成績に関する日程

日時	内容	備考
3月 5日(木) 10時30分～	修了決定者発表・成績通知書開示(専門職大学院)	卒業・修了決定者の成績通知書は、3月25日(水)まで学生ポータル上で閲覧できます。
3月 7日(土) 10時30分～	卒業決定者発表 成績通知書開示(4年次生・大学院生)	
3月 7日(土) 13時00分～	修了決定者発表(大学院)	
3月 7日(土) 13時30分～	成績通知書開示(1～3年次生)	
	進級決定者発表	進級条件が設定されている学年のみ
	卒業見込可能者発表	理工学部・社会情報学部3年次生のみ
3月 9日(月)	保証人宛成績通知書発送	卒業決定者には発送されません。
3月25日(水)	学位授与式	所属の学部・研究科によって時間が異なりますのでご注意ください。 詳しくは本学公式ウェブサイトをご覧ください。 3月の卒業発表後、保証人の方(専門職大学院は除く)宛にご案内状を発送いたします。

※詳細は学生ポータルや、本学公式ウェブサイトを参照してください。

2019年度 春期休業期間中の窓口案内(2/4(火)～3/31(火))

詳細は本学公式ウェブサイトでご確認ください。

2020年度 学事暦(学部)

年度初頭のオリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断は学部・学科ごとに行います。

日時・場所の詳細は学生ポータルにて配信しますので、必ず確認してください。

前期

4/1(水)	入学式	
4/1(水)～6(月)	オリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断*1	
4/7(火)	前期授業開始・新入生歓迎礼拝(夕礼拝)	
4/7(火)～13(月)	新入生歓迎礼拝	
4/15(水)	前期履修登録最終日	
4/29(水・祝)	授業実施日(昭和の日)	
5/4(月・祝)	授業実施日(みどりの日)	
5/11(月)～15(金)	チャペル・ウィーク(前期)	
5/22(金)	ジョン・ウェスレー回心記念礼拝	
6/1(月)	ペンテコステ礼拝	
6/13(土)	アドバイザー・グループ・デー(青山・相模原キャンパスとも授業を実施)	
7/25(土)～8/1(土)	前期定期試験予備日*2	
8/3(月)～9/12(土)	夏期休業期間	
9/26(土)	9月学位授与式	

※緑字は、宗教行事です。

※大学院・専門職大学院の学事暦は一部異なります。本学公式ウェブサイトや「大学院要覧」等を参照してください。

*1 健康診断は青山キャンパス4/1(水)～6(月)、相模原キャンパス4/2(木)～6(月)(ただし、各キャンパスとも4/5(日)は除く)に実施します。

*2 前期定期試験は、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」開催に伴い、原則、実施しません。特段の事情で定期試験を行う場合、この期間に定期試験を実施します。詳細は学生ポータル等をご確認ください。

後期

9/14(月)	後期授業開始	
9/21(月・祝)	授業実施日(敬老の日)	
9/23(水)	後期履修登録最終日	
10/10(土)、11(日)	相模原祭期間(10(土)は相模原キャンパスのみ休講)	
10/12(月)～16(金)	チャペル・ウィーク(後期)	
10/29(木)	宗教改革記念礼拝	
10/30(金)～11/1(日)	青山祭期間(青山・相模原キャンパスとも休講)	
11/2(月)	授業休講(青山・相模原キャンパス)	
11/16(月)	授業実施日(創立記念日)・創立記念礼拝	
11/27(金)	クリスマス・ツリー点火祭	
12/15(火)	クリスマス礼拝(青山キャンパス)	
12/17(木)	クリスマス礼拝(相模原キャンパス)	
12/23(水)～2021年1/7(木)	冬期休業期間	
1/8(金)	後期授業再開	
1/15(金)～17(日)	大学入学共通テスト準備日・実施日(15(金)、16(土)は青山キャンパスのみ休講)	
1/20(水)、21(木)	補講日(青山・相模原キャンパス)	
1/22(金)	補講日(相模原キャンパス)	
1/26(火)～2/2(火)	後期定期試験期間	
2/3(水)～5(金)	スプリング・カレッジフォーリーダーシップ	
3/27(土)	学位授与式・卒業礼拝	

2020年度 学費納付のご案内 (学部・大学院)

納付スケジュールとご注意

発送日	発送対象者	振込依頼書種別	納入期限	注意事項
4/13(月) 予定	学部生 大学院生	前期分学費 前後期一括学費	5/11(月)	前期分学費をお振込の場合 は、後期分学費振込依頼書を保管の上、後期納入期限までにお支払いください。
		後期分学費	9/30(水)	
7/17(金) 予定	教職・諸資格 申請学生	後期分学費 ※教職・諸資格課程料加算 教職・諸資格課程料	9/30(水)	前期分学費をお支払い済みの場合は、後期学費に 教職・諸資格課程料を加算した金額の振込依頼書 をお送りします。前後期一括学費をお支払い済みの場合は、 教職・諸資格課程料のみの振込依頼書 をお送りします。

高等教育の修学支援新制度申請者

発送日	発送対象者	振込依頼書種別	納入期限	注意事項
6/8(月) 予定	2019年度申請者 (新生を除く)	前期分学費	6/30(火) 予定	支援区分の確定後に、減免した授業料で学費を算出し振込依頼書をお送りします。
11/9(月) 予定	採用者 (新生を含む)	後期分学費	11/27(金) 予定	

最終年次2年目以上 (休学除く)

発送日	発送対象者	振込依頼書種別	納入期限
5/18(月) 予定	学部生	前期分学費	6/5(金)
5/25(月) 予定	大学院生		6/12(金)
10/19(月) 予定	学部生	後期分学費	11/6(金)
10/23(金) 予定	大学院生		11/6(金)

相談・問い合わせ先

各種申請は、学生本人が直接窓口へ来るようにしてください。個人情報取り扱いなどの関係上、電話では承れません。春期休業期間中の窓口開室日時は本学公式ウェブサイトをご覧ください。

① 保証人および保証人住所の変更 在学生住所の変更	青山キャンパス 相模原キャンパス	学生生活部 学生生活課	学生生活課
② 振込依頼書の送付先変更・再発行 学費の延納	青山キャンパス 相模原キャンパス	学生生活部 学生生活課	学費・奨学金課
③ 振込手続き、学費一覧表	青山キャンパス	庶務部	経理課
④ 休学・退学	〈学部〉 青山キャンパス 相模原キャンパス	学務部 学務課	教務課 学務課
		〈大学院〉 青山キャンパス 大学院生：学務部 専門職大学院生：学務部 専門職大学院教務課 相模原キャンパス	学務課

2019年度 青山学院学術賞

「青山学院学術賞」は、専門分野の研究において学術の進展に寄与すると認められる業績を発表した青山学院の専任教員に授与される賞です。2019年度は、大学から以下の2名が受賞しました。

■ 文学部 フランス文学科 阿部 崇 教授

【著書】『ミシェル・フーコー、経験としての哲学—方法と主体の問いをめぐって』(2017年11月 法政大学出版局)

■ 理工学部 機械創造工学科 熊野 寛之 教授

【体系的研究】相変化スラリーの流動および熱伝達特性に関する研究

■学部生の振込依頼書は、申し出がない限り、原則として保証人宛に送付します。学生本人宛に送付先変更を希望する場合は、学生生活部学費・奨学金課(青山キャンパス)・学生生活課(相模原キャンパス)に「学費振込用紙送付先変更届」を提出してください。

■入金確認のため、大学より送付する振込依頼書を用いて、金融機関窓口で納付してください(ATM・インターネットバンキングを利用される場合は、同封の案内文に記載されている注意書きに従って手続きしてください)。なお、振込手続きの際、公的機関発行の身分証明書等の提示が必要となる場合があります。詳細は各金融機関窓口にお尋ねください。

■最終年次において留年した場合、履修登録単位数によって学費が異なります。履修登録後に学費を算出するため、振込依頼書の発送および納入期限は左表の通り予定しています。

青山学院校友会からのお知らせ

青山学院校友会ウェブサイト <http://www.alumni-aogaku.jp/>

青山学院には、卒業生同士の親睦を深め、母校との絆をつなぐ「青山学院校友会」が組織され、すべての卒業生が正会員として迎えられます。各学部・学科同窓会の他、国内55カ所・海外21カ所の地域支部、職種別団体や部活動、OB・OG団体等が参加するアイビーグループによって構成されており、多彩な活動を行っています。卒業後はぜひ積極的に校友会活動にご参加ください。校友の活躍やニュース等は、年に3回発行する『あなたと青山学院』で紹介しております。学生食堂などで配布しておりますので、ぜひご覧ください。



「あなたと青山学院」
No.31

【卒業生の皆さまへ】

校友会の事務局は「青山学院校友会センター」です。校友会センターは卒業生の住所などの基本情報を管理し、卒業生と母校青山学院とを結ぶ窓口となっています。氏名、住所等に変更が生じた場合は、必ず校友会センターへお知らせください。校友会センターに寄せられた個人情報は「学校法人青山学院個人情報保護基本方針」に従い厳重に管理し、青山学院および校友会活動に関することに活用されます。

青山学院の広報誌

卒業後、大学広報誌「AGU NEWS」の発送は終了しますが、下記の広報誌を通して卒業生の皆さまに「青山学院の今」をお伝えしていきます。

『あなたと青山学院』

住所の判明している校友全員に定期的に無料でお送りしています。

【住所変更・発送に関する問い合わせ先】

青山学院校友会センター TEL: 03-3409-6645 E-mail: agkoyu@aoyamagakuin.jp

『青山学報』

1916年創刊の青山学院公式機関誌。法人および幼稚園から大学・大学院までの青山学院の情報をお伝えしています。年4回の発行で、年間定期購読料は2,000円(送料含む)です。【定期購読に関する問い合わせ先】 青山学院購買会 TEL: 03-3409-4401

2020年度 一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験報告

2020年度一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験はすべての試験が終了し、志願者数は、一般入学試験が46,683人(前年度46,287人)、大学入試センター試験利用入学試験は11,139人(前年度14,117人)で、合計57,822人(前年度60,404人)でした。

最も多い試験日で約6,800人の受験者が青山キャンパスに来校しました。本学学生団体(吹奏楽バントワリング部、キャンパスツアーガイドボランティア、オープンキャンパス学生スタッフ、ボランティアセンター学生スタッフRoute)や入試アシスタント学生が、多くの受験者の正門入場や試験室への誘導、監督補助をするなど、学生の大きな協力を得て2020年度一般入学試験は無事に終了しました。



正門で受験票を確認する「吹奏楽バントワリング部」の学生たち

CLUB & CIRCLE 46 ヨット部

大なる自然の中で、
技術と人間力が向上。

主務：総合文化政策学部
総合文化政策学科3年 柳澤 皓太 記

ヨット部では2人乗りのヨットで速さを競う競技を行っており、関東インカレ決勝進出を目標に、毎週土日の合宿で技術を磨いています。合宿場所は、神奈川県八景島と葉山です。特に八景島では、多くの大学が同じ宿舎を使っているため他大学の友達が増え、競い合い、助け合いながら、意見交換もでき、貴重な体験となります。

私たちは、全員が大学からヨットを始めた初心者でした。しかし真剣に関東インカレ決勝進出を目指し、勝ちにこだわる効果的な練習や、選手をサポートする環境づくりを心がけています。また合宿等での共同生活を通して、パフォーマンスの向上を目標に、精神面でも成長できたと思います。“風”という人間には抗えない強大な力を動力に、美しい自然に囲まれて海を疾走する気持ち良さを、ぜひ皆さんにも知っていただきたいです。



風に向かって疾走することもできます



美しい雄大な自然の中で練習しています



諏訪牧子教授インタビュー 「生命情報科学」

諏訪 牧子

理工学部 化学・生命科学科 教授

化学・生命科学科では、物質の本質と可能性を探究する「化学」を基盤に、生命現象の本質を探究する「生命科学」を融合した研究を進めています。諏訪研究室では膨大なデータベースを基に、ゲノム、遺伝子、タンパク質など生命に関わる情報を研究しています。



Q.研究内容について教えてください。

当研究室では、「バイオインフォマティクス」の手法を用いて、生物の体内に存在する膜タンパク質という分子の構造や働きを解明するための研究を主に行っています。

「バイオインフォマティクス」を日本語に訳すと「生命情報科学」となります。ゲノム、遺伝子、タンパク質など、生物を構成するさまざまな生体分子の膨大な情報を、(顕微鏡やシャーレなどを用いての生の実験ではなく)データベースから得て、コンピュータ上で効率的かつ網羅的に解析するという点が特徴的です。この学問の進展はとても早く、近年はいわゆるAIで使われる機械学習手法も使われています。

これにより、膜タンパク質同士の相互作用から生じる生命現象の神秘という根源的なテーマに関する知的探究心を満たすとともに、実用面においては、新しい薬品の開発などへの貢献が期待できます。

Q.学生たちの学びの姿勢は？

彼らはまず生命科学の知識とプログラミングを習得して研究に進みます。学年によっても個性は違いますが、特に今年の4年生はとても素直で熱心です。学んで研究する上で素直さというのは長所に違いありません。ただ彼らがさらに成長するためには、時に失敗を恐れず自分の経験の枠組みから飛び出してほしいとも思います。

挑戦をすれば失敗もありますが、私は失

敗の中にこそ真実があると思っています。失敗を真摯に受け止め、原因を見つめることで、今後へのヒントが得られますし、失敗から立ち直る経験は心に強靱なバネを育てます。彼らの中の既存の価値観では効率が悪いとされたり失敗と捉えられたりする事柄の中にこそ、新しい宝が隠れていることも多々あります。学生たちには思い込みのフィルターを外し、ありのままの事実を受け止める新鮮な目を養ってほしいと思います。

Q.学生を指導する際に心掛けていることや、伝えたいことは？

本研究室では毎年1学年の人数は5~6人ですが、これは化学・生命科学科における一般的な研究室の半分のサイズです。学生一人一人に個別のテーマを与えることで自律的な研究を促しています。そして各自の研究について私との密なディスカッションを通して、研究の質が向上するよう心掛けています。

私自身、本学の卒業生ですが、在学時から素直さと思いやりの校風を感じていました。本研究室でもその校風を受け継ぎ、まずは人として基本となる感謝、礼儀、責任感などを、学生がしっかり身に付けられるよう意識していきたいと思っています。良い研究の基本には良い人間性が欠かせないものだからです。その上で学生には、苦しい場面でもグッと笑えるような、心に余裕のある人間に成長してほしいと思っています。



学生の声

名前 里月さん

理工学部 化学・生命科学科4年
神奈川県立川和高等学校出身

もともと“自分”を構築しているものとして、人体のメカニズムに興味をもっていたため、化学・生命科学科に進みました。その中でも、パソコンを使って研究する「バイオインフォマティクス」という手法にスピード感と面白さを感じ、諏訪研究室を志望しました。

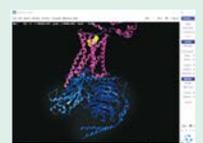
研究室の雰囲気はとても良く、周りからも「諏訪研究室は仲が良いね」と言われるほどです。それと同時に、やりたいことを後押ししてもらえる環境が整っているので、安心して自分の研究に打ち込むことができています。

私が現在取り組んでいるのは、創薬ターゲットとなるタンパク質に関するデータの収集です。地味で根気のいる作業ですが、データを集めれば集めるほどデータベースの精度が向上し、より優れたものに磨いていくことができるという点に大きなやりがいを感じています。

大学院に進学予定で、タンパク質の動きをシミュレーションするためのプログラミング技術を身に付け、将来的には自分の知見を食品や化粧品開発の分野に生かしたいとも考えています。

Lecture Items

生命情報データベースの解析を主な研究手段とする諏訪研究室では、解析用にプログラムを作成したり、専用アプリケーションを利用します。例えば、図はタンパク質の立体構造や機能を解析するツールです。



AGU NEWSについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGU NEWS」を発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。

●最新号からバックナンバーまで、本学公式ウェブサイトでご覧いただけます。

●確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、学生ポータルを利用し、**学生本人が変更手続きをしてください。**